

小学生

「ノーマライゼーションを体感」

○ねらい 障がい者との交流を通して、障がい者への理解と認識が深まる。

○学年・期間 5、6年 2年間

○実施主体 小学校

○協同施設 社会福祉施設（多機能型障がい者福祉サービス事業所）

回数 次期	内 容	工夫したこと 感想等
1回目 (7月)	初めてのCOCO（多機能型障害福祉サービス事業所）施設見学 ・施設長さんの話 施設概要、障がいのある人とは、ノーマライゼーションについて。	次回に向けて、施設の皆さんに楽しんでもらえることを話し合う
2回目 (12月)	2度目の訪問 施設で交流会 ・合唱披露 ・各チームで交流 折り紙チーム、フライングディスクとペタペタ遊びチーム、しおり作りチーム ・施設長さんの話	交流会のための歌や劇のリハーサル、改善点の話し合いを繰り返しました。
3回目 (5月)	小学校にご招待 学校でお楽しみ交流会 ・6年生（進級している）による歌、劇「小学校って楽しいところだね」、お互いに自己紹介、ゲーム ・施設長さんの話	感想「劇、楽しかったよ」とか、「ありがとう」と声をかけてもらってうれしかったよ
4回目 (11月)	心の学習発表会 絆が深まる4回目の交流会 ・6年生による歌、劇「おかしな雪だるま」、ゲーム チームに分かれて競争、おやつ時間 生徒が作ったスイートポテト 施設長さんの話 活動を「絆」プロジェクトと命名。	感想 仲良くなろうと思いたくさんの人と手をつなぐようにしました。
5回目 (3月)	最後の交流会 お別れだけど、ずーっと友達 ・6年生による歌、ゲーム「ジェスチャーゲーム」「つなげてつなげて」、しおりをつくろう、いっしょに歌を歌いましょう、「世界が一つになるために」 ・施設長さんの話 ・感謝状をいただく。	感想 2年間の交流は良いことばかりでしたCOCOの皆さんに感謝したいです。私はアトリエCOCOの皆さんが大好きでした。

※「障がいのある人の施設との交流」活動のポイント

- ①まずは、いいとこさがし
- ②時間をかけて、顔の見える関係づくり
- ③一方的に与えるのではなく、双方向の交流

小学生・中学生・高校生等・大人

心であくしゅ～総合的な学習の時間～

- ねらい 障がいのある人の立場に立ち、共に生きていくために大切なことを考える。
災害の種類や内容について知り、自分の命を守る方法を考え、避難するときや避難所で生活する際にできるボランティアを探し、自助の力を身につける。
- 実施主体 学校
- 協力機関 社会福祉協議会、点訳サークル、身体障がい者、行政

内 容		時数	
福祉教育	福祉とは	絵本を使って考える。	2
	視覚障がい者講話	生活の様子（拡大読書器、タッチメモ、お札・点字のついているもの） 障がい者スポーツについて。	2
	身体障がい者講話	生活の様子（仕事について、普段使っている自助具、出来ること出来ないこと生活クイズ）	2
	聴覚障がい者講話 手話学習	生活の様子（呼び鈴、趣味） 指文字、表情クイズ、名前	1
	点字学習	点字の構成、名刺づくり。	1
	高齢者疑似体験（校内）	高齢者の特徴 体験（生活場所、見やすい色・大きさ等）	1
	車いす体験（校外）	車いすの使い方 体験（スロープ、段差、石の上、自力走行等）	1
	アイマスク体験（校内）	ガイドヘルプの方法・体験（校舎内廊下、階段等）	1
	ユニバーサルデザイン 博士	ユニバーサルデザインについて（身近なもので） デザイナー（普段使っているものをみんなが使いやすく感じるためには？発明しよう！） 発表会（どこを工夫したか等）	6
防災ボランティア教育	起震車 乗車	地震の起こり方、揺れ体験	1
	震災ボランティア講話 非常食体験、防災スリッパづくり、小学生にできるボランティア	被災地の様子（写真） アルファ米を自分で作る。 新聞紙でスリッパを作る。 小学生にもできるボランティアを考える。	2
	液状化実験、波と津波の 違い体験、災害伝言 ダイヤル「117」	液状化について（砂を使った実験）。 波と津波の違いについて（ウエーブと風船）。 災害伝言ダイヤルの使い方。	2
	災害時に生かせるロー プワーク	ロープの結び方（留め結び、もやい結び）	1
	防災カルタ	「ア」～「ン」まで学んだことを絵にする。読み札は取り札を参考に「5・7・5」で作成する。作ったカルタで遊ぼう。	6
計		29	

〈内容は小学生向け〉

小学生・中学生・高校生等・大人

ペットボトルキャップをワクチンにかえて世界の子どもたちを救おう！

○ねらい ペットボトルキャップのリサイクル活動を通じて「福祉の心」を実践活動の中から育てるとともに、気軽に参加できる子どもたちのボランティア活動の場をつくる。

地域の誰でもが気軽に参加できるボランティア活動の場をつくる。

○実施主体 社会福祉協議会、学校

○協力機関等 いきいきサロン世話人

時間	内 容
60分	(1) ボランティア活動・リサイクルについて学習する。 なぜ、ペットボトルキャップを回収するの？何になるの？小さなことから始まったことが、役に立つことや、人と人がつながることの大切さを理解する。(学校での福祉委員会活動の中で社協職員が、キャップ分別等リサイクル活動やボランティア活動について説明する。)
随時	(2) 小学校・中学校・各学校で回収・分別・発送することで自主的な活動として取り組んでいる。 発送後に何人分のポリオワクチンになるのか報告があり、自分たちが世界の子どもたちを何人救えるのかが見え、活動意欲の向上になっている。(学校以外で集めたキャップは、総合福祉センターで回収され、学校帰りの子どもたちやデイサービスの皆さんが分別をしている。)
90分	(3) 回収・分別・発送だけでなく、キャップアートに挑戦することで、楽しみながらボランティア活動につなげている。 学校、福祉施設、いきいきサロンの皆さんのアートづくり参加により、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の参加を促すことができた。イベントで展示することで、地域への情報発信となり、みんなに見てもらうことでより充実感を味わうことができた。 ※コンパネ2枚分(180×90×2枚分)の作成時間

小学生・中学生

高齢者と小学生の交流の輪を広げよう

○ねらい 高齢者と小学生が交流することで高齢者にとっての生きがいをつくり、小学生による高齢者の見守り活動へとつなげる。

○実施主体 学校、公民館

○協力機関等 老人クラブ、民生児童委員、学校支援ボランティア、地域コーディネーター、保護者

内 容	時間	準備事項
高齢者と交流しよう (例)・学校の空き教室を利用して交流する。 昼の休憩時間を利用して囲碁将棋・昔遊びなどをする。 ・学校授業の中で交流する。 昔の地域の祭り、伝統芸能、地域の文化などについて話を聞く。 給食を一緒に食べる。 ・学校行事をとおして交流する。 学校の環境美化、グランドゴルフ大会等。 ・公民館活動で交流する 正月飾りづくり、もちつき大会、花づくり等。	2 時間	学校の空き教室を解放するための話し合い。 地域の高齢者へ働きかける。 老人クラブと連携を取る。 学校支援ボランティアと連携を取る。
ふりかえり 高齢者との交流を通して、気づいたことをなどを話し合う。 高齢者に何かできることはないか考える。	1 時間	
発 展		
ふりかえりで考えたことを実践しよう (例) 登校時に高齢者宅を訪問する。 高齢者宅へ昼食等の配布をする。		

〈内容は小学生向け〉

※交流の際のポイント

子どもの視点に立って、子どもを中心とした取り組みを進める。

小学生・中学生

地域の高齢者について知ろう

○ねらい 地域の施設に通ったり、そこで生活している高齢者との交流を通して、支援が必要な状態について知り、自分たちにできることがないか考える。

○実施主体 学校

○協力機関等 社会福祉協議会、施設、地域住民、高齢者疑似体験インストラクター、車いす体験指導者

内 容	時間	準備事項
地域の高齢者を招きお話を聞こう ・生活で困っていることや得意なことなど質問してみたいことを考える。 ・高齢者にはそれぞれ不得意なこともあれば、得意なこともあることを知る。	2 時間	高齢者の人選、話す内容等の打ち合わせをする。(社協や施設と相談)
体験から高齢者を知ろう ・高齢者疑似体験や車いす体験を通して、加齢によって生じる心身の変化を体感する。	2 時間	高齢者疑似体験セットや車いすを借りる
ふりかえり ・体験等をふりかえり、高齢者に自分たちができることはないか考える。	1 時間	
発 展		
ふりかえりで考えたことを実践しよう (例)・施設を訪問し、交流会を開く。 ・高齢者のお宅にお弁当を届ける。 ・登校時に高齢者宅へ訪問する(あいさつ程度)。		

※体験の際のポイント

高齢者の立場に立って、身体の機能面の変化だけでなく、気持ちの面での変化も考える。

小学生・中学生

福祉体験を通して“地域のいろいろな人とかかわろう”

○ねらい 地域に住むいろいろな人と暮らしていくために、自分にできることを考え、実行に移せる力を身に付け、「心のバリアフリー」を育む。

○実施主体 学校、社会福祉協議会

○協力機関等 福祉センター（通所介護事業所）、地域住民

内 容	時間
事前準備 ①小学校での事前準備 小学生が福祉について事前に質問を考え、福祉センター職員に事前に渡す。 ②福祉センター 小学生の質問に対応できるような準備。	45分
(1) 福祉センターを訪問 ・福祉センターを訪問し、施設の様子や地域には様々な人がいることを知る。 ・高齢者の生の声を聞く。 ・福祉について、事前に準備した質問等で学習する。	50分
(2) ふりかえり 一人ひとりが高齢者に何かできることはないか考える。	15分
(3) 車いすについて学習 社協職員から車いすの操作方法や注意点等を学ぶ。	10分
(4) 車いすを体験 介助する側・される側、観察者のグループを作り、学校や地域の中で車いす体験を行う。	30分
(5) ふりかえり 車いす体験を通して、一人ひとりの意見を聞き、気づいたことを話し合う。	5分
(6) アイマスク体験 介助する側、される側のペアを作り、学校の中や地域の中を体験する。	40分
(7) ふりかえり 一人ひとり感じたことを聞き、目の不自由な人に何かできることはないか話し合う。	5分
(8) 目の不自由な人と交流しよう 目の不自由な人との触れ合い、お話や思いを聞いたり感じたりする。	30分
(9) ふりかえり 交流を通して、気づき感じたことを話し合う。自分自身に何かできることはないか考える。	5分

〈内容は小学生向け〉

【工夫した点（社会福祉協議会）】

小学校から福祉教育（体験）の依頼があり、単に体験するのではなく、子どもたちの自主性、自発性を引き出せるように、「事前学習～体験（できれば校外に出て）～ふりかえり」という流れのなかに、障がいのある方の参加を得て実施してはどうかと提案した。

小学生・中学生

「やさしい心で」～小学生の中に育った学びの芽～

- ねらい いろいろな福祉体験や支援学校との交流、ユニバーサルデザイン調べなどを行い、相手の立場に立って思いやることの大切さや、みんなが暮らしやすい社会にするための工夫について学習する。
- 実施主体 学校、社会福祉協議会
- 協力機関等 地域住民

内	容
「視覚障害を持った方の生活について知ろう」	
①校区に住んでいる視覚障害の方の話聞く。	
・実際の視覚障がい者の生活（白杖や周りの人の声掛けの大切さ、盲人野球や時刻の知り方）について	
②「アイマスク、白杖体験」や「点字体験」	

【取組を終えて】

「福祉」というのは難しい言葉であり、「福祉～やさしい心で」の最初の学習では、子どもたちの多くがその言葉の難しさに首をひねっていた。しかし、一年を通した様々な学習の中で、子どもたちは自分たちにもできることがたくさんあるという具体的な達成感を感じていた。

小学生・中学生

学んで！体験して！思いやりの心を育てよう！～つながる福祉学習～

○ねらい 高齢者疑似体験や認知症サポーター養成講座を受け、高齢者の身体の不自由さや認知症の理解を深めることにより、思いやりの心を育て、自分たちにできることを考える。

○実施主体 学校、社会福祉協議会

○協力機関等 地域包括支援センター、障がい老人をささえる家族の会

内 容	時間
1 福祉センターについて知ろう 福祉センターの施設見学を行い、デイサービスの利用者の方と交流する。	45分
2 高齢者の体について学ぼう 高齢者疑似体験や車いす体験を通して、高齢者の体の不自由さや、かかわり方について学習する。	45分
3 認知症について学ぼう 認知症サポーター養成講座を受け、認知症の正しい理解と接し方について学習する。	45分
4 高齢者と交流しよう 今までに学習したことをふりかえながら、実際に高齢者と接してみる。 「障がい老人をささえる家族の会」の方から、認知症高齢者の介護についてのお話を伺う。	45分

小学生

「あいサポートキッズ」になろう

○ねらい 「あいサポート運動」の趣旨を理解し、障がいのある人等いろいろな立場の人と共に生きる社会を目指して、自分たちにできることを考え行動しようとする気持ちを育てる。

○実施主体 小学校

○強力機関等 社会福祉協議会、聾学校

内 容	時間
1 「あいサポート運動」ってなんだろう 県社会福祉協議会の方からあいサポート運動についての話を聞き、「あいサポートキッズ」になりたいという目標をもたせる。	45分
2 手話を体験しよう 聾学校の教員を講師に手話を体験する。	45分
3 聾学校ってどんなところだろう 聾学校を訪問し、施設見学を行いバリアフリーについて理解を深めたり、聾学校の友だちと出会ったりする。	90分
4 聾学校の友だちと交流しよう 手話をはじめ、相手とコミュニケーションをとるための工夫を「あいサポート行動」として考え、実践に向けての練習をして交流会に臨む。	90分
5 「あいサポートキッズ」認定式を開こう 県社会福祉協議会の出席のもと、自分たちの学びや成長を発表し、これからの生活に生かそうという意欲を高める。	45分

※聾学校児童との交流は回数が限られるので、聾学校の聴覚障がいのある教員とも継続して交流した。

小学生・中学生・高校生等

自然の大切さ・自然の恵みを知ろう

- ねらい 自分たちの生まれ育った地域を知ること、自然に親しみ、守ることの大切さを知る。
また、自然を知り、環境保全について学習することで、生命の大切さを学ぶこと、ひいては、福祉の心を育てることにつながる。
- 実施主体 社会福祉協議会（サマースクール）
- 協力機関 ボランティア（学習支援）、ブナの森を育てる会

内 容	時間
水について知ろう ブナの森を育てる会から説明を受け、実際に湧水に触れてみる。	60分
ブナの森について知ろう ブナの森の保全について学習し、実際にブナの森に入ってみる。	60分
ふりかえり それぞれの感想を話し合い、発表する。	30分

〈内容は小学生向け〉

小学生・中学生

ふるさとしてなんだろう？ ○○で生きる「昭和 58 年洪水」(災害)にふるさとを学ぶ

○ねらい 東日本大震災のニュースを見て子どもたちが抱いた疑問「あんなつらい思いをしたのに、なぜ帰りたいのだろう」を学びのはじまりとして、自分の住んでいる地域でも過去に大きな洪水があったことや、それに対する地区の皆さんの思い、「ふるさと」への思いを学び、被災した人たちの気持ちに寄り添う。

○実施主体 学校

○協力機関等 家族、地域の人々

活 動 内 容	詳 細
家の人の思い出を聞く。	お父さんたちの小学生のころの作文があった。 おじいさんに聞いてみる。
もっと昔の水害のことも調べてみる。	学校近くのお地蔵さんの説明を読んでみる。
親せきや知り合いに体験を聞く。	聞いた話を証言集にする。
当時の新聞記事を読む。	地元の新聞を読み、客観的に災害の様子を知る
講演会	「災害と○○の人々」について講演を聞く。災害のたびにみんなで助け合った素晴らしい歴史があり、その後も地域を守ろうという気持ちにつながっている。
30 年前に活躍した人の話を聞く。	消防団の人は何をしたの？なぜ水害が起きやすいの？ 学校の様子はどうだったの？
地区の皆さんに地域への思いを聞く。	夏休み グループごとに訪問し 160 人に聞きました。
護岸工事の見学	
まとめ	洪水学習で学んだことを冊子にまとめ、地域の人たちに配布。 市主催の「水害を語り継ぐ集い」で市民の皆さんにも発表。

〈内容は小学生向け〉

小学生・中学生

まちのお宝番組をつくろう！

○ねらい 地域ではさまざまな人が暮らし、長い時間その暮らしを紡いでいる。そのことを知り、たくさんの人と出会うことで、子どもたちは教科の学習では学べない地域の姿を学ぶ。地域の人は、子どもに語ることで、改めて自分の地域を見つめなおす。

○実施主体 学校

○協力機関等 社会福祉協議会、保護者、地域の人

進め方

活 動 内 容	詳 細
情報収集（下調べ）	家族やご近所の方から地域のなかで「こんなステキな所がある」「こんな面白い人がいる」といった情報を集めよう。
グループ分け	インタビュアー係、カメラ係、メモ係など役割を決める
取材先の決定、準備	取材させていただく方に事前連絡 どんなことを聞きたいか（知りたいこと）考えてメモしておく。 例 安来節のおじさん、農家のおばさん、リンゴづくりのおじさん、レンコンづくり農家
お宝探しの取材	まちのいろいろな人にインタビュー。
みんなでお宝を見せ合おう！	集めたお宝の映像や写真を見てみよう。
みんなでお宝を分け合おう！	番組や地図、新聞にして発信しよう。
気づいたことを整理しよう。	まちのお宝を大切にするための方法や、もっとよくしたいことを考えて、出来ることを提案しよう。

〈内容は小学生向け〉

準備するもの

地図、カメラ、水筒、画板、ノート、筆記具、レコーダー

※ボランティアセンターより

こういった授業の展開は学校や社協だけでできないところにポイントがある。保護者・地域内の協力者が関わることで学校が開かれ、その結果子どもたちを見守る大人が増えていく。これは、地域にとっても福祉教育。

小学生・中学生・高校生等・大人

シカの食害問題から学ぶふるさと自然のこと

- ねらい シカの食害は、中山間地域の過疎・高齢化、森林の荒廃などと深くつながっていることを学ぶとともに、どんな複雑な問題でも、解決のためにできることは必ずあり、出来ることから始めることを学ぶ。
- 実施主体 学校
- 協力機関等 農業協同組合

内	容
○生活科の時間に、シカによる農林業被害について、新聞記事やテレビの特集番組を教材に授業を開始	
・ どうしてシカによる被害が増えたんだろう？	
・ シカから自然を守るためには？	
○シカをこれ以上、増やさないために	
・ 銃以外で捕獲する方法は？	
○シカに荒らされた森を復活させよう！	
・ ニッコウキスゲの種をもらって学校で苗を育てました。	
○ニッコウキスゲのお花畑をよみがえらせたい！	
・ ニッコウキスゲの苗を植えよう。	
○シカも森も人間も仲良く生きられるように！	

小学生

ぼくたちのまちを知るワークショップ～小学3年生を対象にした事業モデル

○ねらい 通常小学3年生で地図をもって「まち探検」を行う単元があり、警察署や消防署といった公共施設を地図に落とすことが多い。この授業の変型として、公共施設ではなく、自治会長や民生児童委員といった「人」に焦点を当てた地図作りをすることで、自分をとりまく地域の活動者の存在を知り、自分自身が地域福祉活動の受益者であることを知り、職業以外の自分の将来を描くことを目指したプログラム。

○実施主体 小学校

○協力機関等 民生児童委員、自治会長、消防団

取り組み内容		時数
インタビュー 【調べ学習】	宿題で「保護者に地域の人ってどんな役割の人がいるか」聞いてくる。	
事前学習 【授業】	まち探検の前に、地域の人情報をクラスで共有。 各班で質問を考える。	1
事前学習 【授業】	民生児童委員や自治会長、消防団長さんなどに話を聞く。 ※生活班ごとに考えた規定質問とその場で考えた自由質問を組み合わせる。 ※4時間目に実施し給食も一緒に食べる。	1
まち探検 【校外学習】	事前学習で話に出た場所を地図で探しに行きマッピング。 ※人資源を中心にした情報集め ※保護者や地域団体の協力を得て実施	3
まとめ 【班活動】	集めてきた情報を地図化する。	2
報告会練習 【班活動】	報告会に向けた練習。 各班を前半・後半の2チームに分ける。	1
【報告会】	1コマ目は前半の児童が発表し、後半の児童は他班の発表を見学（1回の発表は5分から10分とし、数班を見学）。2コマ目は後半の児童が発表し、前半の児童と交代。※関わった方や保護者を招いて報告をする。※社協担当者や地区社協から話題以外の地域福祉の担い手を紹介する。	2
リフレクシ ョン【授業】	※各自の学びをふりかえりクラス内で共有する。 ※地域の人への手紙形式が有効	1

【留意点】

- ・地域で活動する「人」への共感を生み出すよう随所に声掛けを行うことが教員や家族を含む関係者に必要な視点。
- ・必ずしも地域の第一線で活動する地域人材が小学校での授業にたけているわけではない。そのため、教員とのチームティーチングやインタビュー形式の導入など「人」にあわせた聞き出す工夫が必要となる。大人数での講演型ではなく、少人数での生活班ごとの交流も効果的。

小学生・中学生

ふるさと「〇〇を見つめて」～誰もが住みやすい町・〇〇町へ～

○ねらい バリアのない〇〇町にしていくために、車いすバスケット交流や地域のバリアフリー調査隊等の活動に取り組み、住みやすい町づくりに向けて、自分たちができる行動へつなげる。

○実施主体 学校

○協力機関等 車いすバスケットボールクラブ、公共施設 地域福祉センター、あいサポート研修指導者

内 容	時間
1 学校の中のバリアを体験しよう 介助する者、介助される者、観察者となり、学校の中で車いす体験を行う。	45分
2 車いすバスケットを体験しよう（1回目の交流） 車いすバスケットボール競技の説明を聞き、障がいのある方と一緒に体験する。 学校の中のバリアや車いすバスケットボールを体験した感想を伝えたり、障がいのある方から町づくりへの思いを聞いたりして、バリアをなくすための活動内容を考える。	45分
3 地域のバリアフリー調査（郵便局、人権啓発センター、バス停、道の駅、JR 駅） さまざまな障害のある人をイメージし、地域のバリアやバリアフリーについて調査する。	90分
4 バリアフリー調査のまとめ（2回目の交流） 点字、点字ブロック、スロープ、多目的トイレ、ハートフル駐車場、ノンステップバス等についてまとめたバリアフリー調査結果や感想を障害のある方に伝える。 障がいのある方が、普段町の中で困っていることや感じていること等について聞き取り、〇〇町をもっとバリアフリーの町にしていくための改善点について話し合う。	90分
5 あいサポートキッズ研修 あいサポート運動の意義や活動について知る。さまざまな障がいの内容や支援の仕方を理解し、相手との関わり方を考えたり、実際に手話や筆談を体験したりする。 自分たちの生活の中で、活かせる「あいサポート行動」について考え、行動する。	60分
6 福祉センターでの高齢者や職員の方との交流 ゲーム・歌・体操・クイズ等、自分たちで計画した内容で交流する。 高齢者とのコミュニケーションの仕方や交流して気づいたことを話し合う。 自分や友達の成長についてふりかえり、「やさしさ広げ隊」として活動する。	90分 × 4回分
7 地域や保護者の方に小学校行事（発表会）で学習したことをまとめて発信する 自分から友達との関わり方や言葉遣いを変えて、バリアのない人間関係をつくる。	20分

〈内容は小学生向け〉

中学生

サマーボランティアスクール～

- ねらい 中学生を対象に、夏休みの期間を利用しボランティア活動に関する体験学習を行うことにより、ボランティア活動の意味などを考え、主体的なボランティア活動への理解や参加意欲を育てる。
- テーマ 「あいサポーターになろう！」 ～わたしたちにできること～
- 実施主体 社会福祉協議会
- 協力機関等 中学校

	内 容
30分	専用車で迎え・集合
15分	受付
30分	はじまりの会、アイスブレイキング
30分	グループワーク ・障がいのある方はどんなことで生活しづらいと感じるのでしょうか？
60分	障がいについて学習をします。 ・あいサポート運動の目的について理解を促し、様々な障がいの特性や必要な配慮について学習する。
60分	当事者の方の話を聞く。 ・自分の生い立ち、また留学や一人暮らしをされた経験、特に中学生の時に感じてこられたことなどをお話していただきたい ・質疑応答
60分	グループワークと発表
30分	ふりかえり ・感想は後日編集し、他の参加者の感想や気づきを知る資料として配布する。
30分	おわりの会・記念撮影
	解散・専用車による送り

中学生・高校生等

創ろう・造ろう 私にとってのふるさとサクラ～地域に発信！サクラ〇〇プロジェクト

○ねらい 地域に対して自分ができることを探り、実行することで、地域への所属意識を高め、自立できる生徒になるよう期待。

○実施主体 学校

○協力機関等 地元の人々

内 容
○総合的な学習の時間 テーマ「地域を足場に自立していく生徒を育む総合的な学習」 ①地域に学習素材を見つけ、地域との関わりの中で学習を深めていく。 ②地域から見出した課題をもとに、視野を社会全体や世界に広げていく。 ③社会にある問題から課題を見出し、地域に戻って学習を深めていく。
○2 学期前期 「働くってどういうこと？～ふるさとサクラに働く人々の生き方に学ぼう～」 ・「働くうえで大切なこと」検討会 ・「ふるさとサクラで働く人のお話を聞こう」 ・ふるさとサクラ探検隊 ・職場探検 ・「働くってどういうこと？」私の結論
○2 学期後期 「知ろう 私たちの住む地域 見つけよう 私たちのふるさと」 ・「ふるさとサクラといえば〇〇」 ・「ふるさとサクラ調べ隊」 ・ふるさとサクラ調べ隊で学んだこと。
○3 学年 「創ろう・造ろう私にとってのふるさとサクラ～地域に発信！サクラ〇〇プロジェクト～」 〇〇に入るテーマ ・□□通り商店街 商店街を活性化させ、元気なまちに！ ・東口開発 △△駅の東口開発を知り、より良い まちづくりを！ ・お年寄り、子どもを含め、みんなが住みやすい町に！ ・レキシセツ（歴史・施設）！ ・地域環境 みんなが住みやすい地域に！ ・特産品 地域の特産品をPR！

〈内容は中学生向け〉


中学生・高校生等

STOP ○○町の人口減 私たちの地域 今・未来

○ねらい 「何もないから○○町はすきじゃない。」と思っている生徒たちに、故郷への誇りをもってほしく、社会の授業で、人口という切り口で、世界・日本・○○を学び、地域の課題や解決策を通して、将来の自分を考える。

○実施主体 学校

○協力機関等 地域の住民

内	容
	<p>○ 社会科の授業で日本と世界の人口を学ぼうち、自分たちの地域の人口変化を知り驚く。 どうしてこんなに人が減ったのだろうか？</p> <p>○ 地域の方々への聞き取り調査</p> <ul style="list-style-type: none">・○○町を離れた人の話 町へ出た理由・住み続けている人の話 ○○町を離れないのはなぜ？ <p>○ ○○町の人口減の問題 やっぱり・・・課題に気づく</p> <p>○ 地域の人たちの話を聞いて気づいたこと 様々な意見を受け止める。</p> <ul style="list-style-type: none">・美しい自然、伝統文化、人とのつながり・・・○○町の良さを再発見・お年寄りのふるさと○○に対する誇り、愛情、僕ら若者への期待 <p>都会の人が羨ましがらうような○○町ならではの良いところもあるし、不便でも暮らせないわけではない</p> <p>○ ○○町の人口減を STOP させるために理想は？</p> <p>若者を増やして、お年寄りを支えていく地域にするべきだ。</p>
葛藤	 <p>対立する現実の中でより良い道を探す</p>
	<p>だけど今は、高校生になれば○○を離れて、そのまま町に住みたい・・・ でも、○○町になくなってほしくないし・・・</p>

〈内容は中学生向け〉

中学生・高校生等

電車廃線から地域を考えた ありがとう〇〇線活動実行委員会

- ねらい ○〇電鉄〇〇線の廃線が発表されたことにより、鉄道好きの生徒を中心に実行委員会を立ち上げ、最寄駅の清掃と「ありがとう屋代線新聞」の発行を始めた。活動を通して地域の人たちとの出会いがあり、廃線問題だけでなく、地域の未来を考える視野を持つことになる。
- 実施主体 生徒
- 協力機関等 中学校生徒、保護者、地区住民自治協議会、地域の人、〇〇電鉄職員

内	容
○2011年〇〇電鉄〇〇線の廃線が発表され、M地区では反対運動が始まった。	
○鉄道ファンの生徒が有志を募り、17人の生徒で実行委員会を立ち上げた。	
○生徒会の予算をもらえ、M駅の清掃活動と、「ありがとう〇〇線新聞」の発行活動を始めた。	
○新聞作り、清掃を通してM地区住民自治協議会の人たちをはじめ地域の人たちとの出会いがあり、廃線問題だけではなく、地域の未来を考える視野を持てた。	
最後の新聞では廃線の原因をみんなで考える「〇〇線サミット」を開き記事にした。小学生にも〇〇線のことを覚えてほしいとキッズ新聞も発行した。ふり仮名をつけたり、キャラクターを作るなど工夫を凝らし、まさにユニバーサルデザイン。	
○ぼくたちのまちを走る電車が、廃線になってしまう。ふるさとの駅が、時刻表から消えてしまう・・・鉄道好きの生徒の思いが、まちの歴史と今抱えている課題、地域と自分たちの未来を考える活動につながった。	

中学生・高校生等

セーフティーネットを知るプログラム

○ねらい 地域で住民同士の関わりが希薄化している中で、子どもたちが家族や学校以外の地域での関わりを持つことが難しくなっている。「人との関わり」を通して、自ら SOS を出せる（相談できる）、周りのサポートを受け入れられる力（受援力）を養うことが重要。
社会の中には、様々なセーフティーネット（社会保障制度を含む）があり、色々な人々がお互いに支え合いながら生きていることを学ぶ。

○実施主体 学校

○協力機関等 地域の人々、職場体験先の職員

1 コマ目テーマ「みんなで支え合っている①～相談できる場所を知ろう」

内 容	時間
導入 職場体験の振り返りの時間とする。それぞれの職場体験で経験したことを共有しながら、「社会には様々な仕事があり、みんなで支え合っている」ということを伝える。	5分
展開① グループに分かれての話し合い。 1グループ5、6人のグループに分かれて、各自の職場体験を通じて、誰のための仕事だったのか、何のための仕事だったのかを話し合う。	15分
展開② 全体共有⇒グループに分かれての話し合い。 話し合いから社会には色々な仕事があり、みんなで支え合っていることを共有した上で、自分が将来働く仕事を決めるためには、「誰に相談できるか（相談したいか）」を一緒に考える。	20分
まとめ 全体共有 学校を卒業し社会に出て生きていくためには、仕事を探さなければならない。しかし、必ずしも自分一人の力で解決する必要はなく、相談できる相手や場所（専門的な相談機関）があることを伝える。（ハローワークや若者向けのヤングハローワークについて説明する。）また、地域若者サポートステーションについて説明し、生活相談から就職までの相談に応じてくれるセンターの存在を知る。	10分

2 コマ目 テーマ「みんなで支え合って生きる②～支え合う仕組みを知ろう～」

内 容	時間
導入 社会の中で生きていくうえで、仕事を探す時や病気になった時や生活に困った時など様々な困りごとに出会うことがある。仕事を探す時は、先の時間で学んだ相談できる相手や場所（専門的な相談機関）があるが、病気になった時や生活に困った時などにも、様々な支え合いの仕組みがあることを伝える。	5分
展開① グループに分かれての話し合い もし、自分や家族が病気になった時や困った時など様々な困りごとが起こった場合はどうするか、誰に相談するか話し合う。 ①生活する上でどのような時に困った状況になるか ②その時に自分ならどうするか、誰に相談するか	15分
展開② 全体共有⇒支え合いの仕組みの説明 各グループで話し合ったことを全体共有しながら、グループから出された困った時に状況に応じて、相談できる相手や場所、社会保障の制度について説明する。	20分
まとめ 自分自身が困った時や悩み事を抱えた時に、親や学校以外にも地域で助けてくれる大人がいることと相談できる場があることを確認し、「みんなで支え合っている」ことを認識する。	10分

中学生・高校生等

「私たちにできること」～具体的な実践例～

○ねらい 総合的な学習の時間を使って実践「私たちのできるサポートを学ぶ」

○実施主体 学校

○協力機関等 社会福祉協議会、視覚障がい者、盲導犬利用者

進め方

回	テーマと体験内容
1	ガイダンス（福祉とは）○日常生活の中のバリアフリー ○誰もが関わり住みやすい社会 講師：社協担当職員
2	私たちができるサポート（支援）を学ぼう 講師 歩行訓練師
3	フィールドワーク ○□□駅周辺での体験 アイマスク・白杖を使う人をサポート 講師：視覚障がい者、盲導犬利用者
4	フィールドワーク □□駅周辺を歩く バリアフリーの発見、住みやすい街とは
5	ディスカッション ○体験を通しての意見交換 講師：視覚障がい者、盲導犬利用者 フィールドワークを終えて、福祉マップづくり
6	ユニバーサルデザイン ○ユニバーサルデザインのこれから 講師：企業講師 UD 商品
7.8	高齢者体験（A,B 交互に） A: 高齢者疑似体験と介護サービス 講師：社協職員 B: 高齢者介護講座 講師：介護サービス事業所職員
9	感想の読み直し
10 ～ 13	福祉体験学習のまとめ ・今回の体験活動を通して意見をまとめよう。
14	私たちと福祉（福祉って何が必要なのか） 高齢者も障がい者も私たちが暮らしやすい社会 パネラーとフロアーの協議会 ゲスト：社協、訓練士、介護士
15	まとめ（個人） ○福祉体験学習を通しての報告書を作成 → 「社協だより」に掲載

中学生・高校生等

「私たちにできること」～具体的な実践例～

○ねらい 高齢者も障がい者も私たちが暮らしやすい社会にするために、私たちができること
～アクションを起こそう～

○実施主体 学校

○協力機関等

回	内 容
1	ガイダンス ○前年度の活動を踏まえて、アクションしよう。(自分で行動を起こそう。)
2	体験に向けてテーマを決めよう ○個人テーマを決めよう。○追究に向けて、
3	福祉体験活動の具体化 ○私たちができる福祉活動の実践 ボランティア、調査活動等
夏休 み	福祉講座等への積極的な参加 ・保育園等への訪問、実習 ・社協主催の体験に参加 ・高齢者施設での訪問、実習 ・点字本作成や音響補助 など
4～7	福祉体験学習のまとめ 夏休みの実践と今までの福祉学習で感じたことを自分の言葉でまとめ、 発表する準備
8	私たちと福祉（福祉って何が必要なのか）「高齢者も障がい者も私たちが暮らしやすい社会にする ため、私たちができること」 個人発表 聴衆：同級生、1, 2 年生、保護者、地域の方

中学生・高校生等

中学・高校生ボランティア・サマースクール（ワークキャンプ）

○ねらい 初めての仲間と、初めての場所で、初めてのことをする・・・それはきっと勇気のいること！
でも、勇気の向こう側には、今まで気づかなかったすばらしいナニカが見えてくる。

○実施主体 社会福祉協議会

○協力機関等 中学校、高等学校、社会福祉法人等

回	内 容
1	事前プログラム ボランティアについての学習、オリエンテーション
2	ボランティア学習プログラム 各コースに分かれて活動 下記 16 コースから一人最大 2 コースまで選択可 A コース（高齢者・障がい者ふれあい）活動先：6 社会福祉法人等 活動日：各 2 日間 B コース（子どもふれあい）活動先：6 保育園 活動日：各 2 日間 C コース（地域ふれあい）活動先：児童クラブ等 活動日：各 2 日間、 活動先：自然学校等 活動日：各 2 泊 3 日
3	事後プログラム ふりかえり

中学生

つながろう！私たちの「憲法」「いじめない学校」、幸せな学校生活を目指して

○ねらい 2008年、生徒会役員が中心になって、いじめを防止し、なくすことをめざし、「〇〇中学校憲法」を制定し、代々生徒会が取り組みを引き継いでいる。

○実施主体 中学校

	内 容
2007年	「社会的背景」全国でいじめ問題が顕在化 「うざい」「キモい」などの言葉が流行。 学校の人権教育
2008年	○生徒会総選挙 「いじめない学校」を公約に会長、副会長が立候補 ○新生徒会によるいじめに関するアンケート調査 「理由があれば許されるいじめもある」という意見が・・・ ○生徒会で話し合い いじめを正当化する人の意識を変えるには どうすればいいかな？ 「憲法」にしたらどうだろう。 ○「憲法」条文を考える 一番大切なこと 新入生にも分かりやすく ○生徒会で全校生徒の承認を得る 「〇〇中学校憲法制定」 ○生徒会が代々引き継ぐ憲法を軸にした取り組み ・生徒会にいじめ対策本部を設置 ・人権集会の開催 ・毎月、クラスごとに憲法を確認
2011年	「社会的背景」滋賀県大津市の中学生がいじめを苦に自殺
2013年	町が条例を制定「〇〇町いじめ防止条例」

生徒会の顧問の先生が助言
この機会に何か新しいこと
を考えてみたら・・・

高校生等

高齢者サロンと交流

○ねらい 高校生が高齢者サロンの人と交流を図ることで、地域福祉への理解と関心を高め、地域のなかでともに支え合おうとする心を育てる。

○実施主体 学校、社会福祉協議会、地域住民

○協力機関等 レクリエーション協会、地区社協、公民館

回	時間	内 容
1	50分	○ふれあい・いきいきサロンについて学習しよう ポイント 地域福祉について知り、サロンの意義や効果について理解できるようにする。
2	120分	○円滑なコミュニケーションの取り方を学習しよう サロンで行われるレクなどの演習等を通して、どのようにしたら上手にコミュニケーションがとれるのかを学習する。 ポイント 高齢者の立場に立って、どのように接していけばよいかを考えながら演習を行い、サロンへ訪問した際に役立てる。
3	120分	○高齢者サロンを訪問しよう サロンを訪問し、サロンの内容や様子を体験しながら、高齢者と交流する。
	50分	○ふりかえり 実際に高齢者と接するなかで気づいたことなどを生徒同士で共有する。また、自分自身が高齢者にできることはないかを考える。
4	120分	再度サロンを訪問し、生徒が企画した内容をもとに、実際にサロンを運営してみよう。
	50分	ふりかえり
5	120分	前回の訪問での気づき等を活かし、再度サロンの内容を企画し、運営してみよう
	50分	ふりかえり 3回のサロン訪問を通して、気づいたことなどを振り返り、次の訪問に活かす。

高校生等

青少年ボランティアリーダー養成研修

○ねらい ボランティアリーダーに関する知識・技術の習得を通して、ワークキャンプ事業等において中心的な役割を担う青少年ボランティアリーダーを養成する。

○実施主体 社会福祉協議会

回				
1	30分	受付、開校式		
	2時間	リーダー・プログラム「ワークキャンプの舞台裏」リーダーの使命はこれだ！ワークキャンプとリーダーの役割について学ぼう！		
	3時間	ワークショップⅠ「本当の“自分”」これからたくさんの人たちとの出会いが！良い出会いのポイントは、まず「自分」を知ることから始まる！ ワークショップⅡ「ボランティアリーダーの“イロハ”」ボランティアリーダーって何だろう？リーダーとしてのノウハウを学ぼう！		
2	2時間	ワークショップⅢ「コミュニケーションのチカラ」コミュニケーションのポイントを知り、自分をアピールしよう！！		
	3時間	リーダー・プログラムⅡ【「Tiger ロール」活用術①】虎の巻の活用方法について学び、実践コースを選ぼう！！		
3	2時間	リーダー・プログラムⅡ【「Tiger ロール」活用術②】実践コースを選ぼう！そして、今年度のワークキャンプの全体像をつかもう！		
	1泊	4時間	ワークショップⅣ【アイスブレイクの謎】心ほぐしは重要なアイテム。ワークキャンプで活用できるアイスブレイクを学ぼう！そして、企画しよう！	
	2日	午後	3時間	ブレイクタイム【リーダー限定の語り場】いつもの研修会場がサロンに・・・自分の思っていること、悩んでいることをみんなで語り合おう。
		午前	3時間	ワークショップⅤ【今日から“アイスブレイカー”】企画したアイスブレイクを実際にやってみよう！
		午後		連絡事項等
4	2時間	ワークキャンプⅥ【チームのチカラを知ろう】一人のチカラとチームのチカラを体感しよう！！		
	2時間	リーダー・プログラムⅢ【「Tiger ロール」活用術③】第5回の実践に備えてロールプレイで自信をつけよう（オリエンテーション・体験学習・事後学習編）		
	1時間	実践に向けての最終確認をして準備に備えよう！		
5	7/26～ 8/9	ボランティアリーダーの実践 ワークキャンプ20・・・リーダーの実践 中学・高校生のボランティア・サマースクールに参加		
6	90分	ワークショップⅦ【“リーダー度”測定】約2か月の研修も終了。ボランティアリーダーとしての成果を振り返り、みんなで分かち合おう！ 閉講式・交流会		

大人

「福祉の心・奉仕の心」を育てる～子ども福祉委員会の取り組み」

- ねらい
 - ・地域の子どもを育てるという「地域による福祉教育」の具体化を進めたい。
 - ・地域の大人、地域の福祉組織の活動に主体的に参加することにより、福祉の心・奉仕の心を育てたい。
 - ・子どもが参画することにより、地域の大人の見線・発想を変え、子どもを育てながら大人の「福祉教育」（意識啓発）を図りたい。
- 実施主体 地区社会福祉協議会「子ども福祉委員会」
- 協力機関等 グループホーム、乳幼児センター

内	容
(1) 地区内グループホーム	定期訪問交流 年6回実施 第2土曜日 10時～11時30分 ラジオ体操・屋外散歩同行・室内遊び 福祉協議会スタッフ同行する。
(2) 乳幼児センター訪問交流	夏休みに2回実施 9時～11時 2歳児～5歳児対象に数人ずつ分かれて、屋内外遊び・水遊び等の相手、着替えの世話等 協議会スタッフと共に行動する。
(3) 敬老会へ子どもスタッフとして参画	来場対象者の案内役・司会・出し物披露
(4) ボランティア委員会主催のバザーに売り子スタッフとして参画	大人（ボランティア委員）と一緒に物品販売を行う。

※対象の子ども 3～6年

大人

障がいのある子どもとの交流 ～特別支援学校編～

○ねらい 特別支援学校の児童生徒・教職員と地域住民が、学校や地域での行事にお互いに招待したり、参加したりすることで交流を深め、地域住民と特別支援学校との関係を構築する。

○実施主体 「〇〇プロジェクト」、学校、地域住民

○協力機関等 「〇〇カフェ」、社会福祉協議会、観光協会、行政

時間	内 容
60分	○「特別支援学校」ってどんなところだろう？ ・学校見学を実施し、特別支援教育の全体像と特別支援学校の制度をもとに、対象学校の概要を理解する。
120分	○学校行事に参加しよう ・学校公開に参加し、授業の様子を見学する。 ・教員から普段の子どもの様子について聞く。
180分	○計画を立て、交流、共同実践をしよう ・生徒の学習の成果が実践できる場の提供と、プロジェクトの会員が生徒に役立つことを出し合い、お互いに協同実践できることを計画する。 ・交流して協同実践する。 海岸・遊歩道の清掃、「〇〇の浜カフェ」のビルメンテナンスとトイレ清掃、ランチカフェでの野菜販売、みんなで花畑の管理、校外学習—地域めぐり遠足
90分	○ふりかえり ・特別支援学校とプロジェクト会員とで共同実践の成果と反省点について話し合う。 ・今後、特別支援学校と地域が交流・共同実践できることを検討する。

全世代

地域 みんなが集まろう！

○ねらい 集落の中 みんなが公民館に集まり、交流を図ることで地域福祉への理解と関心を高め、子ども会も交えて「ともに支え合おう」とする心を育てる。

○実施主体 サロン

○協力機関等 サロン世話人、役場福祉課、子ども会

	内 容
120分	(1) 目 的 ・ 3月に各層の代表者からなる世話人会で計画を立てる。 ・ 事業計画は、4月の総会で会員の意見要望を取り入れるように心がける。
120分 (1回 あたり)	(2) サロンの開催 学校が休みの期間は子供会と交流する。
120分	(3) ふりかえり 3月に年間の活動状況を報告し、次年度計画の参考にする。

【年間の活動内容】※ 子ども会との交流

月	内 容	月	内 容
4	総会・講演会、会員同士の懇談会	10	講演会、会員同士の懇談会
5	ものづくり教室、会員同士の懇談会	11	町外研修、ものづくり教室
6	町外研修、講演会	12	しめ縄づくり、男の料理教室、懇談会
7	子ども会との交流※	1	餅つき交流会※、懇談会
8	バーベキュー交流会※	2	ものづくり教室
9	山車づくり応援※、会員同士の交流会	3	反省会を兼ねて懇談会

小学生～大人

地域の伝統を受け継ごう

○ねらい 地域にある伝統を受け継ぐ人から、伝統（技能・技術）について教わりながら、その人自身の人柄や多様な価値観に触れ、技術以上のことをお互いに学び合う。

○実施主体 社会福祉協議会、学校、PTA

○協力機関等 地域住民、ボランティア、老人クラブ

時間	内 容
30分	○地域の伝統を知ろう。 ・講師の話聞き、なぜその伝統行事があるのか、歴史・文化などを理解する。
120分	○伝統行事を体験してみよう ・講師が見本を見せ、各グループに分かれて実際に体験する。 ○グループで発表しよう ・グループごとに実際に出来たものや、技能習得したものを発表する。
30分	○ふりかえり
60分	○前回学んだことを活かして、地域の行事などで披露しよう。

全世代

施設の利用者と交流しよう

- ねらい 地域にある高齢者施設やグループホーム、障がい者施設等の利用者が地域の行事に参加したり、地域住民が施設の行事に参加することで、地域住民と施設の利用者とのつながりを作り、日常的に関わりを持てるようにする。
- 実施主体 社会福祉協議会、施設、学校
- 協力機関等 地域住民、ボランティア、施設職員

時間	内 容
60分	○施設のことを知ろう ・施設長や施設職員から交流の目的や注意事項を聞く。 ・施設見学を行い、その施設にどのような役割があるかを知る。
120分	○施設の利用者と交流しよう ・利用者と一緒に作業をする。 ・イベントで利用者と協働してブースを運営する。
60分	○ふりかえり ・施設職員等から活動の総括をしてもらう。
発展	○施設の利用者を招待しよう ・交流した施設利用者に案内状を出し、参加者側のイベントに参加してもらう。 ○施設が行うボランティア活動などに参加してみよう。

小学生～大人

防災キャンプで防災教育

○ねらい 地域の子どもを対象に、住民や学生が協働して避難所体験を行うことで、子どもと大人がお互いの顔がわかる関係を築ながら、思いやりの気持ちを育み、防災への意識を高める。

○実施主体 社会福祉協議会、地域住民、市町村防災・安全主管部局、PTA

○協力機関等 学校、ボランティア、消防署、地域婦人会

1泊2日

時間	内 容
30分	☆1日目 ○防災についてのお話を聞こう ・消防署、市町村防災・安全主管部局職員等の話
60分	○避難体験ゲームをしよう ・重いリュックを背負い、腕や足をけがしている状態に近い恰好で、3人一組でスタート。 ・超える、くぐる、よける等の動作を必要とする障害物を置き、それらをクリアしてゴールを目指す。
90分	○避難所をつくろう ・ブルーシートや段ボール等を使って体育館に就寝スペースを作る。
150分	○炊き出しをしてみよう ・地域住民と一緒にになってカレー等を作り、炊き出しの体験をする。
60分	○防災グッズについて知ろう（消防署、市町村防災担当） ・防災に役立つ様々な品物の紹介と説明を聞く。 ○物資を運ぶ訓練をしよう（きもだめしも兼ねて） ・夜の暗い校舎の一室に、水やトイレトペーパー等を置いておき、子どもたちがそれを取りに行く。
30分	☆2日目 ○緊急避難訓練 ・朝5時という早い時間に抜き打ちで避難訓練を実施する。
60分	○非常食を食べてみよう ・水を注ぐだけで食べられる非常食や缶詰等を食べ、非常食の準備についての意識を高める。
60分	○町歩きをしよう ・大人と一緒に学校周辺を歩き、危険個所などを調べる。 ○応急救護の訓練をしよう ・消防署の救急救命士を招いて、緊急時に役に立つ、けがの手当ての仕方、担架の作り方などを学ぶ。
60分	○ふりかえり ・2日間で学んだこと、考えたことなどをグループでまとめて発表する。

大人

日本語教育で国際交流

○ねらい 地域で日本語の学習が必要な児童やその家族が、日本語の学習を通して地域住民と交流することで、日常的に関わりを持てるようにする。

○実施主体 学校、市町村社会福祉協議会、行政

○協力機関等 ボランティア、国際交流員、交換留学生、国際交流団体

時間	内 容
30分	○外国人との交流について、話を聞こう ・国際交流員や交換留学生から、趣旨や目的を話してもらう。
120分	○外国人と交流しよう ・料理教室を開催し、国際交流員等の母国料理を参加者と一緒に作る。 ・出来上がった料理を試食しながら、コミュニケーションを図る。
60分	○ふりかえり
	○地域の行事に招待しよう ・対象児童やその家族を地域の行事などに招待し、住民相互の理解を深める。 ○日本語教室を開こう ・日本語が分からない児童やその家族に対し、参加したボランティアが定期的に日本語教室を開く。

小学生～大人

子どもから大人までが関わりを持つ福祉のまちづくり
～子どもボランティア隊の活動～

○ねらい 「子どもたちの自立と共生」

地域の中で大人との関わりを持ち、自分たちのやりたい事・地域みんなが幸せになる為に、自分たちも地域の一人として、何が出来るか考え活動につなげる。

○実施主体 小中 PTA 役員、子ども会役員、ボランティア、社会福祉協議会

○協力機関等 小学校、中学校、小中 PTA, 子ども会、自治会

内	容
○組織	隊員 60 名（小学生 4 年生以上、中学生、高校生） サポート隊 17 名（小中 PTA 役員・子どもかい役員各 2 名）、ボランティア 8 名、社協 3 名） 活動 年 20 回 全員参加は 4 回 後は自由参加
○メインの活動（これまで実施したもの）	・ 地域探検災害マップ作り。（自分の住んでいる地域の危険な所を知る。） ・ 救急法を学ぶ。 AED の取り扱い実技、救命手当て実技、応急手当 ・ 他地域子ども活動団体と交流。 ・ 認知症サポーター養成講座（認知症の方との接し方・見守り支援） ・ 地震防災センター見学。（自分の身は自分で守る）
○地区社協事業の協力	・ 子育てトークの会のお手伝い。 ・ S 型デイサービスのお手伝い。 ・ 赤い羽根共同募金の呼びかけ。 ・ 福祉教育を考える集い（活動発表） ・ 寝たきり高齢者の慰問品作りと慰問。
○その他の活動	・ 地区内施設の人たちに、クリスマスプレゼント作りと交流。 ・ 1 人暮らし高齢者と料理教室。 ・ 中学生パソコンボランティア（地域の役員さんの資料作りのお手伝い。）

大人

発達障がいって何？

○ねらい 発達障がいの特性を正しく理解し、ともに地域社会で暮らしていく視点を持つ。

○実施主体 公民館

○協力機関等 各種団体、ボランティア

時間	内 容
30分	○発達障がいについて知ろう ・「発達障がい」の概念や定義を紹介する。 ・身体障がい、知的障がいの違いを説明する。
60分	○発達障がいの困難さを体験してみよう ・読む・聞く・書く・話す・計算する・考えることなどに対する困難さ ・行動面での困難さ ・社会性、コミュニケーションにおける困難さ
30分	○まとめ・ふりかえり ・個々の障がい名だけではなく、「発達障がい」として、全般に共通する困難さと支援の手がかりをつかむ。

大人

児童虐待について知ろう

- ねらい 児童虐待等、子どもの権利が侵害されている実態について知り、子どもの権利について考える契機とする。
- 実施主体 社会福祉協議会
- 協力機関等 学校、児童養護施設、乳児院、児童相談所等

時間	内 容
60分	○子どもの権利について知ろう ・児童虐待の現状やそれに対する取組み、支援機関等について学ぶ。
60分	○子どもを守るためにできることを考えよう ・それぞれの立場で虐待から子どもを守るためにできることを考え、意見を出し合う。
30分	○ふりかえり ・それぞれのグループで出た意見を共有する。 ・学校・地域・保護者が連携して取り組める虐待防止策を考える。 ※ポイント 学校や地域など多くの目で子どもを見守ることが、虐待の未然防止・早期発見につながることに気づかせる。

※高齢者や障がい者の虐待防止に向けた取組みにも応用できる。

小学生～大人

広報紙「社会福祉だより」を作成し、福祉活動の啓発を図ろう

○ねらい 広報紙を活用して、地域の中での社会福祉活動の実態や課題、めざす方向等を広く住民に理解してもらい、福祉活動について関心を持てるようにする。

○実施主体 社会福祉協議会

○協力機関等 民生児童委員協議会、自治会、公民館、ボランティア、老人クラブ、障害者団体、小学生、中学生、高校生

時間	内 容
20分	○広報紙を作る人を決めよう ・ 広報紙を作る趣旨を説明。 ・ 責任者を決め、役割分担をする。
120分 ×2回	○広報紙を作ろう ・ 広報紙の効果、編集の仕方等についての研修会を開く。 ・ 発行回数や予算等を決める。
60分	○地域の人に配ろう ・ 印刷部数や配布先を決め、配布する。
	○アンケートを実施しよう ・ 広報紙と一緒にアンケートも配布する。
60分	○ふりかえり ・ 広報紙の作成や配布を通して気づいたことを話し合う。
90分	○ふりかえりでの意見をもとに、広報紙を工夫しよう

大人

社会的包摂を考えるロールプレー

○ねらい ロールプレーを通して、色々な立場の人の気持ちになることを体験し、建前ではなく自己のなかにもあるコンフリクトも体験する。本人の役割を演じることで、本人の気持ちを理解したり受容できる人が増えることも期待される。排除する側と本人という二者関係ではなく、その間に中間的な立場の住民がいるという三者関係であることが重要。中間的な立場の住民は本人と排除する側の間の折り合いをどうつけ、支援者側としてはどの立ち位置をとっていかを考えることをねらいとする。

○実施主体 社会福祉協議会

内	容
○ロールプレー形式の研修	3人1組でやるので、6~9名ぐらいの単位でグループ化する。 所要時間：90分程度
	3人1組になり、テーマを与えて A：困った人（本人）/B：排除する人（近隣）/c：支援する住民（なんでも相談員等）に分かれてロールプレーをする。
	〈テーマ例〉
	・ゴミ屋敷になり引きこもりがちでコミュニケーションがとりにくい男性
	・認知症になり、よく鍋を焦がすようになってきた一人暮らしの女性
	・公園にいるホームレスの人
	①双方の言い分を聞き、課題は何かを考える
	(1) BさんとCさんのやりとり（ex. 近隣住民がなんでも相談に来た）のロールプレー（10分） ⇒全体で共有（10分）
	(2) AさんとCさんのやりとり（ex. 相談員として、Cさんを訪問する）のロールプレー（10分） ⇒全体で共有（10分）
	②支援者としてどう折り合いをつけるか考える
	(3) Aさんに対してどうするのかロールプレー（10分） ⇒全体で共有（10分）
	(4) Bさんに対してどうするのかロールプレー（10分） ⇒全体で共有（10分）
	③まとめ（10分） ファシリテーターによる考察
メッセージ	排除する側と本人という二極対立を防ぐためにも、双方の間に立つ住民の層を厚くしていくことが必要。排除されている側に寄り添い、その人たちの想いを代弁できる人たちを増やしていくことで社会的排除を防いでいくことができる。
留意点	・意見を共有したあと、ファシリテーターによる解説が大事。共有だけで終わってしまうと、排除する意見や姿勢に対しての気づきが得られない。 ・排除側ではなく、本人側に立つというところを確認する。

小学生～大人

地域の安全点検をして、災害にそなえよう

○ねらい 防災をテーマに、子どもと大人が一緒になって自分の地域を点検して防災マップをすることで、防災意識を高め、誰もが安心・安全に暮らせるまちづくりにつなげる。

○実施主体 自治会、行政、公民館

○協力機関等 学校、社会福祉協議会、地域住民、施設、ボランティア

時間	内 容
120分	○地震の被害や対策について考えよう ・グループに分かれて、地震の被害・対策（どうすれば身を守れるか）について調べ発表する。 ○どんな防災マップにするか話し合おう。
120分	○地域を点検しよう ・実際に町を歩き、災害時に必要となるものや危険を及ぼすもの（危険個所、消火器、消火栓、高齢者世帯、空き家、ブロック塀、看板、ガラス、自動販売機、病院、避難場所など）をマップに記録する。 ○防災マップを作ろう ・分かりやすい防災マップを作り、避難ルートを話し合う。
60分	○ふりかえり ・グループごとに作成した防災マップを発表し、今後の活用について話し合う。
	○ふりかえりで考えた取り組みを実践しよう。 ・独居高齢者宅の除雪をする。 ・高齢者や発達障がい者等の避難態勢を考える。 ・日常からの住民同士の声かけ、見守りを行う。

大人

誰もが生まれた地域・自宅で暮らしたいと思える地域づくりを考えよう

○ねらい 介護劇を通して介護に関する情報提供を行う。地域での助け合い・支え合いの大切さを伝え
病気や障がいがあっても自宅で過ごせる環境づくりを応援していく。

○実施主体 劇団〇〇（ボランティアグループ）

○協力機関等 社会福祉協議会

時間	内容
120～180 ×1ヶ月位	(1) 企画・学習会 ○内容（テーマ）を決めよう 〈テーマ〉 在宅介護や認知症、サロンの推進、孤独死等を取り上げ、当事者と地域の人たちとの関わり方のヒントを劇の中で伝える。 ・認知症の人とどう接していけば良いのか ・認知症の理解 ・閉じこもり予防（サロンへ行こう） ・悩まない、辛くならないための在宅介護 ・孤独死を防ごう ・介護用品の紹介 等 依頼先の希望にあわせて内容はさまざま。 ○テーマに合わせた学習会を実施しよう ○台本を作成しよう ○出演者を決め、役割分担しよう 衣装・小物の準備を行う。
	(2) 練習
20～30分	(3) 介護劇の披露 手法としては、一人の語り手が出演するすべての役者のせりふをしゃべり、それに合わせて演技する。
120分	(4) ふりかえり 発表を通しての感想を話し合う。

大人

誰でもが住みなれた地域で安心して暮らせる自治会を目指そう！

○ねらい 自治会の中の身近な生活の場で、住民同士がお互い支え合い・助け合い小地域福祉活動を推進する。

○実施主体 自治会

○協力機関等 社会福祉協議会、行政

時間	内 容
60分 年2回	(1) 地域の福祉力を高めるための組織化 ネットワーク活動を自治会の活動としていくため区長が会長。
60分/月	(2) 異年代交流からサロン開催へ まずは区民同士が仲よくなるよう。事業を通して交流。⇒交流活動の中から高齢者が中心となったサロンの立ち上げへ。 介護予防事業 毎月1回「筋肉サロン」の開始 福祉施設めぐり（年1回）
90分	(3) 支え合いマップづくり 区長から提案：災害はいつやってくるからわからない。マップを作ってみよう。 マップを作成、図上訓練の実施。
60分	(4) ふりかえり ・図上訓練ではいざという時に動けない。実際に訓練が必要。 ・要支援者を確認したことにより、地域の課題がみえてきた。区民が何かできることはないか。
毎日	生活支援ネットワーク、見守り活動へ

大人

元気なときに考えておこう やさしい法教育講座

○ねらい 安心して老後を過ごすために、身近な所で起こるトラブルや相談事を法的に解決する方法を考える。

○実施主体 社会福祉協議会

○協力機関等 法務局、社会福祉士会、弁護士会、司法書士、公民館、地域包括支援センター等

時間	内 容
120分	○法律や制度について知ろう ・身近な問題を解決するための法律や制度について、具体的な事例をとおして話を聞く。 (例) 成年後見人につて・・・成年後見センター、社会福祉士会 相続について・・・法務局、司法書士、行政書士 遺言書の書き方について・・・司法書士 よくあるご近所のトラブルについて・・・弁護士
60分	○ふりかえり ・話を聞いて、気づいたことや実際にしておきたいこと、自分にできることなどを話し合う。

大人

シニアボランティア講座 生活支援型～くらし安心～
生きがい・健康促進型

○ねらい 団塊の世代や中高年の者が、介護の知識、地域のサロン等で活かせるレクリエーションを学び、今後の生活に活かしたり、地域でボランティア活動へ参画するきっかけをつくる。

○実施主体 社会福祉協議会

回	生活支援型	生きがい・健康促進型
1	○開講式 ○オリエンテーショ ○導入「シニア世代に期待されること」	
	○講演 相手の心を癒す傾聴ボランティア活動～傾聴スキルの習得	
2	○知っているようで知らない認知症の話 講師：医師、保健師、看護師他	○音読であたまいきいき 講師：図書館職員
3	○カラダの変化を知ろう 講師：県立大学看護学部	○レクリエーション 講師：県レクリエーション協会
4	日常生活の具体的な介護の知識と技術 講師：介護福祉士会	○ニュースポーツを楽しもう 講師：県レクリエーション協会
5	もしもの時に役立つ応急手当 講師：消防署職員	○珈琲、紅茶の美味しい入れ方講座 講師：喫茶店主
	閉講式	閉講式

大人

大人のためのボランティア学校

○ねらい 地域の現状を知り、地域の未来を感じ、ボランティアの意思をもって、創造的市民像の創出を目指す。

○実施主体 社会福祉協議会

○協力機関等 商工会議所、ボランティア団体等

回	フレーム	講師	ねらい
1 180分	入学式	社協職員	関係性づくり
2 120分	社会とボランティアの関係性	大学教授	ボランティア活動者として自分たちで地域の福祉を推進していこうとする意識を育むことを目的とする。
3 120分	健康(ストレスの減少、仲間づくり)	ラフターヨガ指導者	参加者の仲間づくりと健康づくりをテーマに、参加者同士の関係性向上をラフターヨガを通じて形成する。
4 120分	チームとしてのチカラ	自然学校講師	チームビルディング等ワークショップを実施し、他者と協力し、目的を共有することの大切さを体感する。
5 150分	地域への関心	商工会議所青年部	自分たちの住む地域について理解と関心を高める。
6 150分	地域への付加価値を高める	社協職員	地域への誇りや愛着を住民自身が感じながら、豊かな地域を考えるワークショップを実施する。
7 150分	身近なボランティア①	ボランティア団体	“傾聴” “アサーション” について学ぶ。
8 150分	身近なボランティア②	ボランティア活動実践者	活動実践者から話を聞く。
9 150分	ボランティアの実践を考える	社協職員	ボランティア活動をする前の事前学習
10 120分 ×2	ボランティア体験 2日間		体験施設 デイサービス施設、放課後児童クラブ 社協・車いす介助ボランティア
11	交流会 事後学習 卒業式		

※ラフターヨガ 笑いとヨガの呼吸法を組み合わせたエクササイズ

大人

地域でボランティア活動を始めてみませんか

- ねらい 地域住民がボランティア活動へ参加するきっかけとなるような、ボランティア講座、ボランティア体験活動を行い、ボランティア活動への関心や参加意欲を高める。
- 実施主体 社会福祉協議会、地域住民、企業、公民館
- 協力機関等 施設、行政、ボランティア

時間	内 容
60分	○ボランティアって何？ ・ボランティア入門講座
90分	○ボランティア活動に参加しよう ・ボランティア団体の協力のもと、身近なボランティア活動に参加する。 ・継続活動の希望者はボランティア登録する。
60分	○ふりかえり
120分	○ふりかえりで考えた活動を実践しよう。 ・企業や事業主が主体となり、住民とともにボランティア活動を行う。

大人

妊娠中や子育ての不安でたまるストレスを解消しよう

○ねらい 妊娠中や子育て中の父親や母親が集まる場を作り、孤独感や不安感からくるストレスを解消するとともに、同じ立場の人との人間関係を築き、つながりを深める。

○実施主体 公民館、行政（保健師）、ボランティア、民生児童委員

○協力機関等 ボランティアグループ

時間	内 容
1回 90分程度 で定期的に開催	<p>○子育ての悩みやストレスを解消しよう</p> <ul style="list-style-type: none">・子育て中の人が集まり、悩みを話し合ったり、ストレスを解消したりする場を作る。 <p>(例)・ちょっと一息 癒しの時間(ハーブティー、手作りのクッキーなど)</p> <ul style="list-style-type: none">・音の出るおもちゃ作り・絵本のすすめ一読み聞かせ・子育てママのコミュニケーション講座・ベビーマッサージ教室 <p>※ポイント 親子を対象とする場、親だけを対象とする場など内容を多種多様に工夫する。</p>
60分	<p>○ふりかえり</p> <p>活動を通して、気づいたことなどを話し合う。 参加者自身が、今後自分にできることはないか考える。</p> <p>※ポイント 講座等への参加だけでなく、参加者が主体となって、地域で子育て支援をしていく方法についても考える。 親同士の交流も深まるようにする。</p>

小学生～大人

もうひとつのふるさと応援プロジェクト

- ねらい 高齢化集落における外部の力を活かした地域コミュニティづくり。
- 実施主体 社会福祉協議会、行政
- 協力機関等 関係組織、NPO

○雪かき体験塾

内	容
○事前研修	・ 地域を理解する。 ・ ボランティア同士の関係性づくり
○講習・実践研修	・ 雪かき活動を体験する。(地元の人と交流しながら活動) ・ 地元との交流。(グループ分け、昼食交流、ふりかえり)
○事後研修	・ ふりかえり “気づき” から “学び” へ、そして “実践” へ

専 門

コンフリクトを対話のチャンスへと変えるワークショップ

○ねらい 「コンフリクト」として顕在化されるに至るプロセスのなかにある「孤立化」という「社会的排除」の構造に着目する。かつ、そのプロセスを個々人が背おった暮らしの「ストーリー」を引き出すことまでをねらう。

○実施主体 社会福祉協議会

内 容
対象：民生児童委員、福祉委員等の地域の関係者
○ワークショップ形式の研修 3人1組とし、6人でグループ化 所要時間：130分程度
①コンセプトの説明 10分
②事例のデモンストレーション 20分 (事例の紹介5分、デモンストレーション5分、ふりかえり10分)
③事例作成 30分(事例作成シートを使用) 各班が3人1チームに分かれ、チームごとに1つの事例をつくる。
④ロールプレイの事前説明 マッチアップ相手の確認、ルールの説明。5分
④ロールプレイ 30分(15分×2事例) 各チームから1名ずつマッチアップし、各班3ペアをつくる。 13分経ったところで事例について2分間で説明する。 役割を交代して同じ作業を繰り返す。
⑤グループごとのリフレクション(振り返り) 20分 「社会的孤立」に至る背景として、どのような点が確認できたか。また、ストーリーのどのような点に「共感」できたか、できなかったかを共有。
⑥全体のリフレクション(振り返り) 15分
留意点 「問題解決」のためのケースワークのような事例検討にならないように意識する。 住民が関わるという時に、「ゴミ屋敷問題の人」としてではなく、生活者としての「出会い」がどうしたら可能なのか考えることを意識する。